

LOBO 調査

早期景気観測

日商調査日 3月13日～19日
当所調査日 3月6日～23日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、商工振興員の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

3月の全産業DI ▲49・0
(前月比 ▲16・4ポイント悪化)

中小企業の景況感

1989年4月調査開始以来、過去最悪の悪化幅を記録した。これまでは、2011年4月時の▲11・8ポイント。

新型コロナウイルス流行の影響から、インバウンドを含む観光需要の減少に加え、外出の自粛や消費マインドの低下が生じた。イベントの中止などに伴う相次ぐキャンセルに伴い、客足が激減した宿泊業や飲食業、観光関連業を中心とするサービス業や小売業の業況感が大幅に悪化した。

○マイナス要因

世界的な新型コロナウイルスの流行拡大に伴うインバウンドを含む観光需要の減少やサプライチェーン、生活活動への影響に加え、消費マインドの低迷、消費税率引き上げ、人手不足による人件費の上昇、原材料費の上昇、コスト増加分の価格低下の遅れ、世界経済の動向など不透明感が増す中、中小企業の業況感は2011年6月以来のマイナス50台が見込まれる厳しい状況。

○先行き

先行き見通しDIが▲56・5(前月比▲7・5ポイント)悪化。

サプライチェーンの混乱や部品、資材などの調達難による生産活動への影響も続いており、新型コロナウイルスの世界的な流行に伴う世界経済の先行き不透明感が広く業況感の押し下げ要因となっている。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

人手不足対策として省力化のための設備投資を検討していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経営不安が大きく、計画の変更を余儀なくされている(非鉄金属製造業)。
新型コロナウイルス流行の影響から、食品のまとめ買い傾向が見られたものの、外出を控える動きの広がりを受けた客数減少や営業時間の短縮に伴い、生鮮類を中心に売上は落ち込み、全体の売上は2割減少した。資金繰りが非常に厳しくなっており、長期化すれば倒産もありうる(スーパー)。
歓迎会や謝恩会のシーズンを迎え繁忙期のはずが、宴会や披露宴、各種イベント、会議などのキャンセルが相次ぎ、売上は前年比3割程度にまで落ち込んでいる。予約状況に応じた営業時間の短縮や社員の残業の抑制によりコスト減に努めているが、流行が長期化すれば経営悪化は避けられない(飲食業)。

【当所調査】

「新型コロナウイルスの影響から、DIは大幅に悪化」

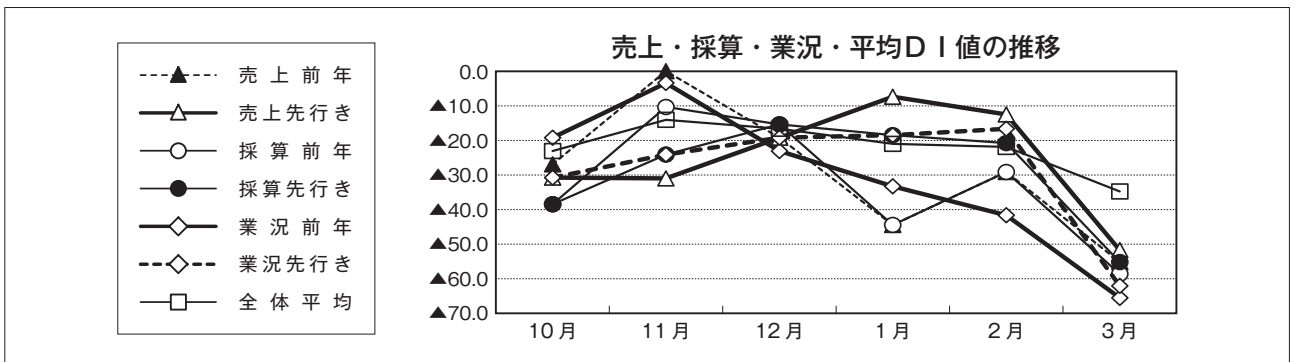
全体平均DIは▲34・8ポイントで、前月に比べ▲12・9ポイントの悪化。

項目別では、前月と比較し売上先行きが▲39・2ポイント、業況先行きが▲45・4ポイントと大幅に悪化した。

寄せられたコメントには「新型コロナウイルスの影響で納品が遅れて支障がでている」「(管工事業)、「新型コロナウイルスの影響は、東日本大震災とは違って先行きが見通せないため、大きな不安を感じている(楽器小売業)」という声が開かれた。

(全産業) 水戸商工会議所商工振興員LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	平成31年		令和元年				令和2年	
	3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
売上前年	4.0	▲26.9	0.0	▲19.2	▲44.4	▲29.2	▲55.2	
売上先行き	▲24.0	▲30.8	▲31.0	▲19.2	▲7.4	▲12.5	▲51.7	
採算前年	0.0	▲38.5	▲10.3	▲15.4	▲44.4	▲29.2	▲58.6	
採算先行き	▲20.0	▲38.5	▲24.1	▲15.4	▲18.5	▲20.8	▲55.2	
仕入前年	▲56.0	▲42.3	▲48.3	▲34.6	▲33.3	▲33.3	▲24.1	
仕入先行き	▲48.0	▲42.3	▲24.1	▲38.5	▲29.6	▲37.5	▲24.1	
社員前年	20.0	19.2	17.2	7.7	14.8	8.3	17.2	
社員先行き	32.0	19.2	20.7	7.7	14.8	4.2	17.2	
業況前年	▲12.0	▲19.2	▲3.4	▲23.1	▲33.3	▲41.7	▲65.5	
業況先行き	▲24.0	▲30.8	▲24.1	▲19.2	▲18.5	▲16.7	▲62.1	
資金前年	▲8.0	▲19.2	▲17.2	▲19.2	▲33.3	▲33.3	▲27.6	
資金先行き	▲16.0	▲26.9	▲24.1	▲11.5	▲18.5	▲20.8	▲27.6	
全体平均	▲12.7	▲23.1	▲14.1	▲16.7	▲21.0	▲21.9	▲34.8	



*DI値(景況判断指数) = (増加・好転などの回答数 - 減少・悪化などの回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。